



「国際森林年」 記念植樹活動を実施

～秋晴れの中ボランティア参加者が広葉樹を植樹～

—— 山形森林管理署

10月20日(木)、山形市山寺の国有林において、一般公募による参加者23名(財)日本森林林業振興会秋田支部5名、当署職員11名の合計39名により、「国際森林年」を記念した植樹活動を実施しました。

当箇所は、山形市山寺から仙台市太白区秋保町を結ぶ林道「二口線」沿いで、平成19年9月の台風9号により山腹崩壊が発生し、山形署では治山工事により被災した森林の復旧に努めてきました。この復旧の取り組みの一部として、国際森林年の理念である「持続可能な森林の管理と利用」について、広く国民の理解と認識を高めていただく機会とすべく、「国際森林年」を記念したボランティアによる植生回復のための植樹活動を企画したものです。

現地はスギの造林地でしたが、土石流により大小の転石が多数混じり、整地はしたものの土壌条件が悪いため、客土、固形肥料、バーク堆肥も準備して植え付けることとしました。開催にあたっては、(財)日本森林林業振興会秋田支部との共催とさせてい

ただき、苗木や客土等の物資のご協力をいただきました。

当日は天気にも恵まれ、0・14haにコナラ100本、ケヤキ100本の計200本の苗木を植樹しました。開会にあたり、当署崎野署長から

国際森林年についての説明と「当箇所は山寺と仙台を結ぶ林道であり、このあたりを通る際には植樹した場所を見てもらい、今回の活動の意義を感じていただきたい」との挨拶がありました。また、参加者からは、植樹活動で汗を流す喜びと「3〜4年経つてまた来てみて、苗木が根付いて山になっている様子を見てみたい」など



参加者による植樹の様子

の話が聞けました。参加者はみなさん心を込めて丁寧に植え付けており、苗木の生長を楽しみにしているようで、今は約80cmの苗木ですが、成長とともにこれから毎年、紅葉が楽しめることでしょう。

また、この活動内容は、「山形放送」及び「さくらんぼテレビ」により、当夕方方のニュース番組で紹介され、国際森林年と国有林のPRにつなぐことができました。これからも一般の方々に、当箇所の保育作業も含め森林の手入れ等を通して、森林、林業の重要性を認識していただく機会を作っていきたいと考えています。



植樹後に記念撮影